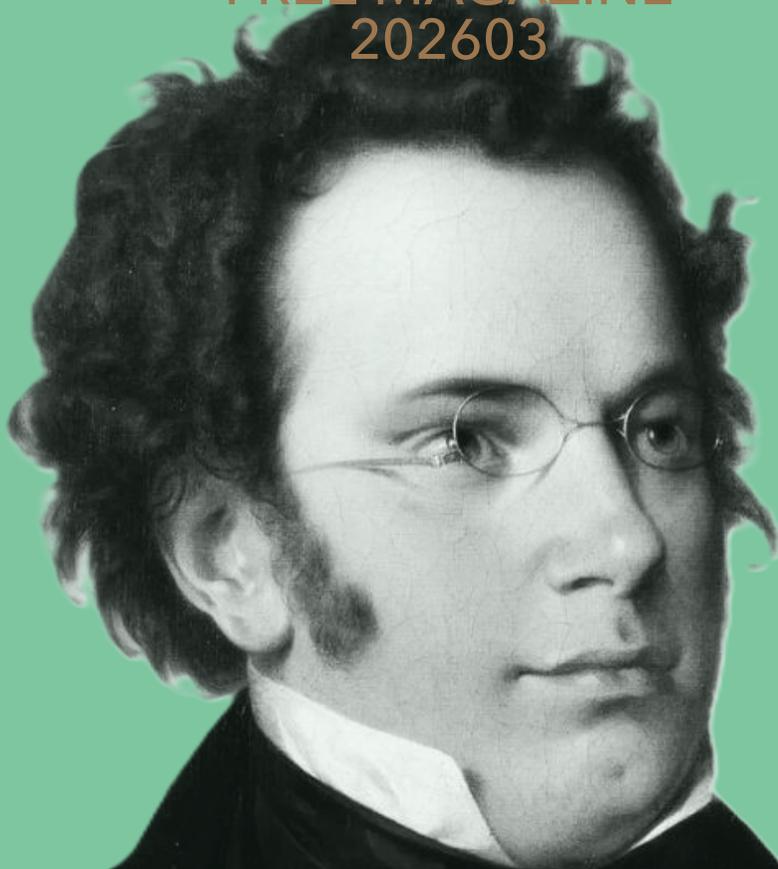


TAKE  
FREE

特別企画「伊福部昭と芥川也寸志」  
展開中♪

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE  
FREE MAGAZINE  
202603



Franz Peter Schubert  
(1797 ~ 1828)

CONTENTS

- 02 【レコード芸術ONLINE 新譜月評】2026年2月の特選タイトル一覧+批評抜粋  
06 【レコード芸術ONLINE 記事一覧】2026年1月23日~2月19日更新の記事一覧

レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作：「レコード芸術 ONLINE」編集部

# レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第7号です。 掲載記事 2,400 本\* 突破！ ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部フリーマガジンです。第7回の今号には、2026年2月の「新譜月評」特選タイトル一覧＋批評抜粋、直近1ヶ月の記事一覧を収録しました。

本サイトは月額1,100円（税込）。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

\* 2024年10月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026年2月19日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初2ヶ月間が100% OFFとなる「年間契約プラン」を開始しました。  
詳細は右側のQRコードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

## 【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026年2月の特選タイトル一覧＋批評抜粋

特選＝ダブル評を行ったもので、2名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常CDです



それぞれの批評全文＋他の音源については、  
有料会員限定コンテンツとして  
「レコード芸術 ONLINE」上でお読みいただけます♪

[https://recogei.ontomo-mag.com/disc\\_review/backnumber/202602/](https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202602/)

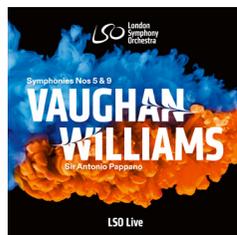
### ●オーケストラ曲



シューベルト：交響曲第8番《未完成》、同第4番《悲劇的》  
パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー・ブレーメン  
[RCA (D) SICC10489] SACDハイブリッド

♪この数年来、シューベルトの交響曲を様々な演奏会で取り上げているこのコンビだが、彼らのいつものCD制作と同じく、セッション録音を行なって丁寧に作り込まれている [...] それ鮮明に分かるのが《未完成》。例えば第1主題を支える弦楽器のきめ細やかなデュナーミクが、アスリートに具わったしなやかな筋肉にも似たDKAM独特の響きを際立たせる……（小宮）

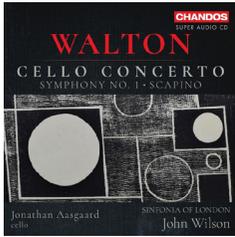
♪パーヴォとカンマーフィル・ブレーメンが、ついにシューベルトの交響曲全曲プロジェクトに乗り出した [...] 「ウィーン風」といった根拠薄弱な甘えの一切ないシューベルトである。サウンドは、多声性を明確にした筋肉質とも言えるもので、作曲家がしのばせたニュアンス変化やトリックに対して、機敏に反応している……（船木）



ヴォーン・ウィリアムズ：交響曲第5番、同第9番  
アントニオ・パッパーノ指揮ロンドン交響楽団  
[LSO Live (D) LSO0900 (海外盤)] SACDハイブリッド

♪パッパーノとロンドン響は2019年と翌年に交響曲第4、6番を録音していた。そちらが共に輝かしい色彩と迫力を前面に出した演奏であったの比べると、今回の第5、9番は少々趣が異なる。むしろ色彩は軽く艶消しをかけたような抑制が効かせてある。これは解釈の違いなのか、それともヴォーン・ウィリアムズ自身の書法の問題なのか……（相場）

♪このコンビによるヴォーン・ウィリアムズ（以下RVW）の交響曲は、すでに第4&6番がリリース済みである。[...] 穏やかで美しい響きに満ちた第5番とミステリアスな第9番に、パッパーノがどのように取り組んでいるのか興味津々であったが、期待以上のすばらしい演奏であったことを最初に記しておきたい……（満津岡）



**ウォルトン：チェロ協奏曲、交響曲第1番、喜劇的序曲《スカピノ》**  
 ヨナハン・アースゴール (vc) ジョン・ウィルソン指揮シンフォニア・オブ・ロンドン  
 [Chandos (D) CHSA5328 (海外盤)] SACD ハイブリッド

♪ウォルトン作品の特徴を見事に示したディスク。まずもって、シンフォニア・オブ・ロンドンの技巧に驚かされる。スーパーカーのようなオーケストラを操り、バランスの良い演奏に仕上げたウィルソンの仕事も素晴らしい […] 音楽学者マーヴィン・クックによる充実した解説も嬉しい…… (石原 (勇))

♪交響曲第1番は、管楽器が明晰に鳴り響く、このコンビならではのパート・バランスになっており、とりわけ、第1楽章ではホルン・セクションがプリプリと勇壮に吹いているのが特徴的。 […] 当演奏は作曲者の指定に近いと、「かなり速い」と感じる方も多いはずだ。しかしこの演奏では、速いからといって、細部を疎かにすることはない…… (満津岡)

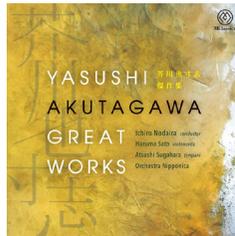


**モーツァルト／ピアノ協奏曲集 Vol.3**

デヤン・ラジッチ (p) ヤン・ヴィレム・デ・フリーント指揮ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団  
 [チャレンジ・クラシックス (D) SCC72947]

♪デヤン・ラジッチというピアニストは、選曲においても、演奏においても独自の立ち位置を示してきた。ただ筆者がこれまでに接してきた実演、とりわけロマン派の作品では「やり過ぎ」の感がなくもなかったように思う。だが本盤を聴くに、その感性と知性のバランスは十分に熟してきたようだ…… (新野見)

♪気がつけばデヤン・ラジッチもかなりの数の録音を積み重ね、立派なベテランの域に達したピアニストとなっている。モーツァルトのピアノ協奏曲集も今回の Vol.3 で完結とのこと。みずみずしい感性に裏打ちされた、音楽の喜びを感じさせる闊達な演奏、現代的なセンスを随所に採り入れた独自のカデンツァ…… (広瀬)



**芥川也寸志 傑作集**

野平一郎指揮オーケストラ・ニッポニカ、佐藤晴真 (vc) 菅原淳 (timp)  
 [MClassics (D) MYCL00068]

♪オーケストラ・ニッポニカは、2025年のこの演奏会をもって、23年続いた活動を休止した […] 最後の演奏会ということもあってか、まず明らかにオケの音が熱い。そして豪快で骨太な音を放っている。それゆえキレが不足したり動きの重さが見られる場面もあるが、こうした試みに賭ける意志・思いが如実に伝わってくる音だ…… (石原)

♪この演奏会では4曲が演奏された。父、龍之介の小説に基づく《蜘蛛の糸》(1968) は、バレエとしての上演を想定した作品だが、一種の交響詩として捉えることもできる。トーンクラスターや無調的な響きを取り入れつつも、多数の打楽器やハーブ、チェレスタの活躍するオーケストラの音色は美しく…… (増田)

●室内楽／器楽曲

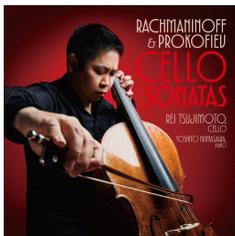


**ベートーヴェン、リゲティ、レフコウィッツ／弦楽四重奏曲集**  
 クアルテット・インテグラ

[ヤーラン・レコーズ (D) NYCX10563]

♪ベートーヴェンでは、冒頭からのモチーフに込められた作曲者の思いが、あたかも語られているかのような微妙なニュアンスで4人がそれぞれのフレーズの断片を繋いでいく。この曲から今までにこのような表情のやり取りが意識的に感じられる演奏は初めてである…… (草野)

♪クアルテット・インテグラと言えばリゲティを思い出すほど、リゲティの弦楽四重奏曲に対する彼らの透徹した解釈と技巧は折り紙付きだ。今回もリゲティの第2番の演奏は圧巻。静寂と極度の荒々しさの間を瞬時に行き来しながら、弱音の繊細な美しさと、破壊的な音圧を浴びる快感で魅了する。しかも…… (白石)



**ラフマニノフ：チェロ・ソナタ、プロコフィエフ：同**

辻本玲 (vc) 沼沢淑音 (p)  
 [キングレコード (D) KICC1637]

♪ラフマニノフとプロコフィエフ。片やどっぶりと後期ロマン、片やドライな近代モダニスト。チェロにもピアノにも超絶技巧を要する共通点はあるが、まずはこの二人のチェロ・ソナタを並べたところに選曲と対照の妙がある […] こうした作品の特色を鮮烈に描き分け、文句のつけようのない快演を聴かせる…… (石原)

♪隙のない堂々たる演奏であり、チェロが中心の楽曲ではあるが、ピアノ・パートのこれらの曲で果たす役割は大きく、その意味でこの2人のレベルの高さが充実した演奏を生み出したと言えるだろう。まずラフマニノフでは、冒頭に憂鬱な旋律が遅いレントで始まるが、主部ではその悲しみの中から流れるフレージングをたっぷりと歌い上げて…… (草野)



## Empfindungen ~ C.P.E. バッハ／ヴァイオリン・ソナタ集

寺神戸亮 (vn) ファビオ・ボニツォーニ (cemb)

[チャレンジ・クラシックス (D) XCC72971]

♪バロック・ヴァイオリンの名手、寺神戸亮とイタリアの鍵盤奏者であり指揮者でもあるファビオ・ボニツォーニのチェンバロでC.P.E. (カール・フィリップ・エマヌエル) バッハのヴァイオリン・ソナタ3曲を中心としたCD [...] 3曲の前に最初に登場する《鍵盤楽器とヴァイオリンのためのファンタジア》という曲は、極めて興味をそそる…… (草野)

♪外連味たっぷりにやろうと思えばやれる音楽に、いわば誠実に向き合っている。自筆譜にはそれなりに多くの情報が書き込まれていて [...] それを無視することはないように聞こえてくるのである。もちろん、楽章内での形上の重要な切れ目において…… (安田)



## Voyage en France

リッカルド・テルツォ (fg) 沢野智子 (p)

[MClassics (D) MYCL00059]

♪ともにドイツで活躍するイタリア人ファゴット奏者と日本人ピアニストが、フランス近・現代の作品に取り組み、東京で録音された、インターナショナルな内容のアルバム [...] 「フランス近・現代」と一括りにしてしまったが、サン＝サーンスの抒情からケクランの内省、ブトリの切迫感まで、その音楽のスタイルは実に多様…… (後藤)

♪現在はライブツィヒ・ゲヴァントハウス管の首席を務めるテルツォのソロ・デビュー盤 [...] 彼自身の筆による序文によれば「内面的な回想の記録」で、愛妻と「フランスを巡った日々から生まれた現実の風景と心の風景をたどる親密な旅の記憶」でもあるという。音色は丸く柔軟、テクニックは軽々としている。音楽の表情は非常に大きくリズムもシャープ…… (西村)

### ●鍵盤曲



## Spiral Galaxy of Bach

大木麻理 (org)

[MClassics (D) MYCL00067]

♪ミュゼザ川崎シンフォニーホールの専属オルガニスト、大木麻理によるバッハの名曲アルバム [...] オルガンは音色の選択でサウンドが変わる。とりわけモダンの楽器ほどその傾向があるようだ。大木はかつてリュベックで研鑽を積んだ人だけに、バッハが若い頃に体験した北ドイツ様式のバロック・オルガンに近いサウンドに仕上がっている…… (那須田)

♪壮麗な響きと多様な音色を併せ持つ大規模なクーン社製オルガンの特性を最大限に引き出し、演奏の意図が明確に伝わる音楽を紡ぎ出している [...] 残響時間が長い教会に比べるとコンサートホールのオルガンは大音量でも飽和しにくく、各声部の関係がクリアに浮かび上がることが多いが、この演奏もそこを意識してテンポと音色を…… (山之内)

### ●音楽史



## ソロ・ウン・サルテリオ～サルテリオのための独奏作品集

フランツィスカ・フライシャンデール (サルテリオ)

[note one (D) SNO26001]

♪楽器との出会いは、音楽家の人生を根源的に揺さぶり、狂わせ、奮い立たせ、ときには破壊に導く。このディスクに付された演奏者自身による解説、むしろ告白は、この18世紀に製作された楽器が、彼女を熱狂させ、探究に明け暮れ、この録音に至ったかを、その邂逅から今に至る歩みを、折々にもたらされた苦勞を、その克服と歓喜を、赤裸々に語る…… (美山)

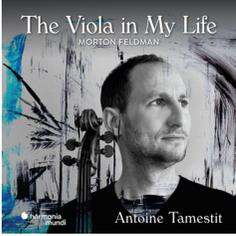
♪サルテリオ (プサルテリウム、プサルタリー) はまだマンロウの『中世・ルネサンスの楽器』所蔵品の立場から抜け出せていないかもしれない [...] ダルシマー奏者だったフライシャンデールにバロック・サルテリオを勧めたアンドレア・マルコンに私たちは感謝しなくてはなるまい。むろん [...] フライシャンデール本人にも…… (矢澤)

### [2026年2月の新譜月評執筆者一覧]

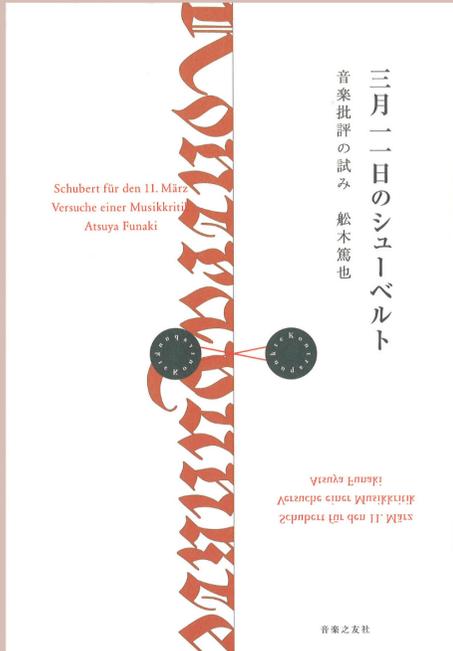
※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子  
國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也  
西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂丘彦 船木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良  
美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷲野彰子

●現代曲／ポスト・クラシカル

	<p><b>モートン・フェルドマン／ザ・ヴィオラ・イン・マイ・ライフ</b>          アントワン・タメスティ (va) ハリー・オッグ, フランソワ＝グザヴィエ・ロト指揮ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団, パウロ・アルバレス (p)          [Harmonia Mundi (D) HMM905328 (海外盤)]</p> <p>♪ヴィオラ界の寵児、タメスティの最新盤である。どれほど超絶技巧を凝らした作品でも鮮やかなリアリゼーションで唸らせる彼が、ある意味、対極的な音楽に挑んだことに注目したい。今年、生誕100年となるフェルドマンの《ザ・ヴィオラ・イン・マイ・ライフ》の連作で、とりとめない瞑想のような、あるいは一種の風景画のようなアンサンブルの中で…… (白石)</p> <p>♪フェルドマン作品を聴くということは、耳の記憶を全開にして聴覚を研ぎ澄ましなが、常に過去と今とこれからに集中しつつ、同時に虚心坦懐にそこにいるということだ。ヴィオラという楽器を聴くためにフェルドマンの用意した敷地には、最初ヴァイオリン、チェロ、フルート、ピアノに打楽器が入り…… (長木)</p>
	<p><b>コントラバス颯風-2</b>          溝入敬三 (cb) 溝入由美子 (ehr)          [ALM (D) ALM147]</p> <p>♪近年、国内でも現代作品を演奏するソロ・コントラバス奏者が複数登場しているが、たぶんその元締めというか、創始者として「君臨」するのが溝入だろう。「颯風」ではなく「颯風」とでも書きたいような飄々とした素振り、わけもなく超絶困難な作品を弾く(叩く)だけではなく、歌い、語り、そして作曲までしてしまい、オマケに…… (長木)</p> <p>♪松平頼暁、一柳慧、湯浅譲二 […] 戦後日本の現代音楽界を牽引した、三巨匠の作品が揃い踏みする曲目リストだけでもインパクトが強いが、それら全てが、本アルバム的主人公、溝入敬三を想定して作曲されたという事実にも注目したい。これらの大切な作品を、録音物という形で後世に遺したいという、溝入の並々ならぬ思いは…… (松平)</p>

※今月は「オペラ／声楽曲」「その他」の特選作品はございません



【音楽之友社の書籍】

## 三月一日のシューベルト 音楽批評の試み

船木篤也 著

定価：2,860円 (本体2,600円+税)  
 4-6判・304頁 2024年12月発行  
 ISBNコード：9784276210141  
 商品コード：210140



↑詳細はこちらから  
「立ち読み」もあります

「対旋律が揺さぶる——」。月刊誌『レコード芸術』に2020年1月号から23年7月号(休刊号)まで、22回にわたって連載され圧倒的な支持を得た連載「コントラプンクテ 音楽の日月」に大幅に加筆、書名を変更しての単行本化。「音楽」からの視点と、「音楽とは異なる世界」からの視点を交差させることで、あたかも対旋律が主旋律を引き立てるが如く、音楽の新たな魅力や人生の味わい、世界への問題意識が浮かびあがります。表題タイトルの章の他、「マラー×緊急事態宣言」、「バッハ×させていただく」、「ワーグナー×川上未映子」等、意外性と刺激に満ちた音楽批評が展開。

# 【レコード芸術 ONLINE】

## 2026年1月23日～2月19日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

### 注目記事

【特別企画】2026年にアニヴァーサリー・イヤーを迎える クラシック音楽の主な音楽家たち | 鈴木淳史

【伊福部昭と芥川也寸志】伊福部昭を聴くための3つのポイント | 小室敬幸

【連載】名演奏家再批評 File01 フルトヴェングラーを再批評する③④ | 新野見卓也

【連載】名演奏家再批評 File02 古楽の視点で語る 初期録音の名演奏家①② | 布施砂丘彦



【お知らせ】【2026年2月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報

【お知らせ】【予告】タワーレコード渋谷店で、レコード芸術 ONLINE 関連のインスタ・イベントを開催♪  
※終了しました

【お知らせ】【特報】MOOK『レコード芸術 2026』発売+目次を公開♪

【お知らせ】「不滅の名盤」特設コーナーに、25点を追加しました！

【お知らせ】フリーマガジン第6号配布開始！

【お知らせ】クラシック音楽 海外盤リリース情報（2026年2月）

【2026年1月新譜月評】音楽史、現代曲／ポスト・クラシカル、その他

【2026年2月新譜月評】オーケストラ曲、室内楽／器楽曲、鍵盤曲、オペラ／声楽曲

【最新盤レビュー】カラヤン&ベルリン・フィル放送録音集成の第2弾は 同コンビの黄金期ともいえる1970年代を網羅！ | 芳岡正樹

【最新盤レビュー】リイシュー&BOX 注目盤（1月） | 編集部

【最新盤レビュー】ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサート 2026 ネゼ＝セガンが初登場 | 広瀬大介

【最新盤レビュー】アーノンクール生涯唯一のワーグナー！ '99年シュティリアルテ音楽祭での貴重なライブ録音 | 堀内修

【最新盤レビュー】ピアノ界の新星、マロフェーエフが放つ4人の亡命作曲家と共鳴するデビュー作 | 山本明尚

【クラシック・レコード 2025 回顧】リーダーズ・チョイス 2025 結果発表！ | 読者の皆様

【特別企画】編集部員のひとりごと #3 | 編集部

【連載】女性作曲家に魅せられて 第4回 マリー・ジャエルに魅せられて 録音編 | 谷戸基岩

【連載】女性作曲家に魅せられて 第4回 マリー・ジャエルに魅せられて 生涯・作品編 | 小林緑

【連載】プレルーディウム 第17回 音楽の置きどころ | 船木篤也

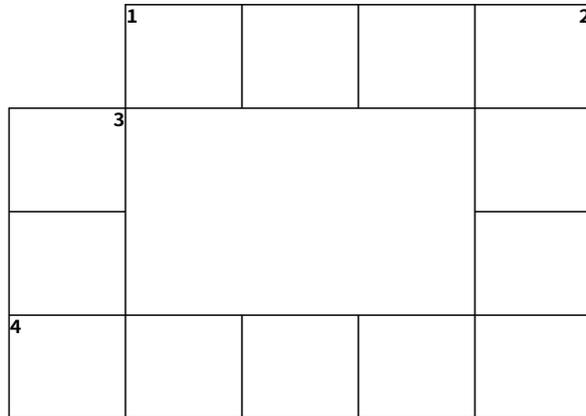
【レコ芸アーカイブ】名演奏のディスコロジー 第2回（1976年2月号）小澤とマルティノンのラヴェル | 柴田南雄

【レコ芸アーカイブ・特捜プロジェクト】ヨハン・シュターミッツ | 安田和信

【レコ芸アーカイブ・特捜プロジェクト】ミクロス・ローザ | 満津岡信育

## 不定期掲載 今月のパズル！

(答えはページ下部にあります)



### 横のヒント

1. 伊福部昭が作曲したバレエ《サロメ》で、表題役の登場シーンに印象なソロのある楽器
4. 芥川也寸志が1980年に改訂版の初演を行った伊福部作品《シンフォニア・〇〇〇〇〇〇》

### 縦のヒント

2. 芥川がインドの石窟寺院での印象をもとに作曲した《〇〇〇〇交響曲》
3. 伊福部が音楽を担当した映画『ゴジラ』（1954）で、宝田明が演じた主人公は「〇〇〇ヒドト」

# 広告募集中

お問い合わせ：

(株) 音楽之友社「レコード芸術 ONLINE」編集部

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂 6-30 / E-mail: reco\_online@ongakunotomo.co.jp

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNSのご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。



[パズルの答え] 1. オーボエ、2. エローラ、3. オガタ、4. タフカーラ

クラシック音楽の定番ディスク・ガイド、最新決定版！

これまでの膨大なクラシック録音の中から、『レコード芸術』誌などで高く評価された定評ある名盤300点を選び、その演奏の特徴を紹介していきます。録音の選定は満津岡信育氏、山崎浩太郎氏、音楽史を矢澤孝樹氏が担当しました。ディスク紹介は豪華執筆陣が登場、1点あたりの紹介文をたっぷりとり、不滅の名盤ぶりがよくわかる充実の内容となっています。オールカラーページ。

ONTOMO MOOK近刊

# クラシック不滅の名盤300

レコード芸術ONLINE 編

予価2,640円（本体2,400円+消費税） B5判・176頁 ISBN：9784276963856 発行：音楽之友社

2026年3月27日発売

「クラシック不滅の名盤300」についてのお問い合わせ：

（株）音楽之友社営業部 〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30 ☎03（3235）2151